

平成24年度第3回社会福祉審議会議事録

- 日時：平成25年2月21日（木）午後6時から午後7時30分
- 場所：大和市保健福祉センター5階501会議室
- 参加：
 - [出席委員] 12名
 - 中村委員、赤嶺委員、高橋委員、金子委員、中澤委員、小野委員、北林委員、桐原委員、鈴木委員、和田委員、山岸委員、山本委員
 - [欠席委員] 3名
 - 松井委員、阿部委員、前川委員

【次第】

1. 開 会
2. 議 題
 - (1) 大和市次世代育成支援行動計画（後期計画）の進捗状況について
 - (2) 大和市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の進捗状況について
 - (3) 大和市地域福祉計画の進捗状況について
 - (4) 大和市地域福祉計画の改定について
3. その他
 - (1) 次回の社会福祉審議会について
 - (2) その他
4. 閉 会

以下、要旨記録

1. 開 会

事務局 委員定数15人のうち、出席者12名、過半数に達しているため、「大和市社会福祉審議会規則第6条第2項」の規定により会議は成立している。

2. 議 事

(1) 大和市次世代育成支援行動計画（後期計画）の進捗状況について

事務局 大和市次世代育成支援行動計画（後期計画）の進捗状況（資料1）について説明。

委 員 一次評価は自己評価というが、評価が「努めてください」と他人事のように書いてある。

事務局 評価は事務局が作成し、客観的に書くようにしている。
委員 一次評価と二次評価の点数が1点ぐらい離れている。
事務局 一次も二次も独自に点をつけている。二次がなぜ点が高いかは説明しづらい。
委員 同じものを評価しているのに1点違うのは理解度が違うのか。その差をどういう風に見るのか。本来、差はないはずだ。
事務局 Aは5点、Bは3点、Cは1点で数値化している。4点、2点がないので動きの幅が大きい。改善するとしたら今後はその点を行う。
委員 一般の方が見て違和感を感じない出し方が大事。

(2) 大和市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の進捗状況について

事務局 大和市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の進捗状況について(資料2)説明。
委員 地域包括支援センターが2カ所増えて9カ所になる。在宅介護支援センターの展望は。
事務局 在支は1カ所ある。当面は継続するが、縮小しいずれはなくなる予定である。
委員 機能は相談的な役割を担っているのか。
事務局 包括は2カ所増えて9カ所になるが、高齢者も増えており、今後更に包括を増やす可能性もある。在支が包括になる可能性もあるので当面は残す。
委員 特別養護老人ホームの公募はしたのか。
事務局 公募し応募はあった。その1事業所は選考基準に足りなかった。
委員 高齢者が気軽に集える場所というのは、ミニサロンとの整合性はあるのか。高齢者は身近なところに行く。相当数設けるのか、市内に1カ所なのか。
事務局 平成25年度に居場所を1カ所モデル的に行う。おしゃべりやお茶をのむような場所で、相談コーナーも設置される。様子を見て、北中南だけでなく、身近なところに広がればいい。各地にできたら地域の人に運営してほしい。
委員 市はミニサロンをバックアップするのか、それとも市は市で行うのか。
事務局 ミニサロンと居場所は別で、ミニサロンは今まで通りとなる。
委員 買い物支援策を検討しているというが、目的は外出を促すのか、在宅で買い物ができるようにするのか。
事務局 外出を促すのではなく外出できない人を想定している。移動販売のようなものを考えている。
委員 スーパーが近くにあってもか。

事務局 スーパーから近くても外出できない人もいる。ネットスーパーのように配達してくれる、そういうのとあわせて行う。

委員 高齢者はネットは使えないのでは。

事務局 ネットスーパーは一例。昔の御用聞きを考えてほしい。外出できない人のところへ行って注文を受ける。

委員 介護予防アンケートの追跡調査はどのように行うのか。

事務局 緊急雇用制度を使いたい。保健師の訪問も考えている。

委員 よい制度なので市独自で実施してほしい。

委員 介護支援ボランティアの登録が大和は37人いるが、内容が分からない。

事務局 県の自主事業で、食事の配膳やクリーニングのボランティアを行う。平成25年度も市も同じことを考えている。ポイントはお金に換金することができる。

委員 37人とは。県の調査なのか。

事務局 実証実験に登録した人。

委員 県が調査するのではなく、大和がやらなくてはいけない。

委員 37人は把握しているのか。

事務局 把握している。

(3) 大和市地域福祉計画の進捗状況について

事務局 大和市地域福祉計画の進捗状況について（資料3）説明

委員 居場所と拠点で考えを別にするのではなく、同じ考えをもったほうがいいのではないか。

事務局 居場所と拠点は明確には分ける必要もないので、今後は柔軟に考えたい。

委員 拠点でもあり居場所でもある。どちらも住民交流拠点といえる。

委員 包括では介護予防サポーターが活動し、コミュニケーションをとっている。地域のネットワークができています。

委員 相模原市が自殺に関する条例を制定した。それをご存じか。ご存じであれば、どのように考えているか。

事務局 新聞報道で承知している。議員が提案したものである。内容は詳細を把握していないが、今後も情報収集に努める。

委員 施策1の車椅子バスケットボール体験講座や高齢者疑似体験キット等の活用も大事だが、瀬谷区のNPO法人が広汎性発達障害の子を子ども達に理解してもらおうことを学校で行っている。彼らはいじめの対象

になりやすいので、子ども達に理解してもらうことは大事。

(4) 大和市地域福祉計画の改定について

- 事務局 大和市地域福祉計画の改定について（資料4）説明。
- 委員 地域福祉計画を改定していこうとするのは前向きでいいが、市民が多様化しているということか。
- 事務局 当時と情勢が変わっていること、想定していない新たな課題が生じている。
- 委員 P D C Aが大事で、今までの計画を反省し、それを反映したのがアンケートになるのか、次回の計画になるのかきちんと反映してほしい。
- 委員 高齢、障がい、児童などに共通する事項をきちんと位置づけること。後見でも高齢者、知的障がい、未成年に後見制度がある。虐待で親権が停止された子どもの権利擁護の問題もある。苦情解決するしくみを地域福祉計画に位置づける。
- 事務局 高齢の分野では施策が進んでいる。地域には障がい、生活困窮者などいろいろな課題がある。共通するヨコ軸で見たときに、遅れているところ進んでいるところがある。それを含めて整理していきたい。
- 委員 地域福祉計画の位置づけが大事。一部の自治体は個別計画を集積しただけでポリシーがない。基盤計画として働くためには、次世代、高齢者の開始年度にズレがあるが、内容に齟齬が生じないように。それを貫くような計画にしてほしい。

3. その他

(1) 次回の社会福祉審議会について

事務局 第1回は5月下旬を予定しており、4月上旬に案内をする予定です。

(2) その他

4. 閉会